

## 原子炉利用研究者グループ 総会議事録

日時：令和2年2月5日(水) 12:15～12:45

場所：京都大学複合原子力科学研究所 事務棟大会議室

出席者(敬称略)：12名

(近畿大学) 芳原新也、(東京都市大学) 羽倉尚人

(京大複合研) 鈴木実、櫻井良憲、渡邊翼、田中浩基、日野正裕、伊藤大介、川口昭夫

(事務局) 鶴田八千世

渡辺賢一代表幹事(名大)が欠席のため、櫻井総務担当幹事が下記、報告及び議事進行を行った。なお予算に関する議事内容の詳細については、同年1月27日に開催された原子炉利用研究者グループ幹事会(以下 原子炉利用者幹事会)議事録(資料2)に記載されている。

議題：

### 1. 平成31年会計報告

平成31年(H31.1-R1.12)の決算報告書(資料1)について鈴木会計幹事より説明があり、会計監査結果についても問題無いことが報告された。

### 2. 令和2年予算案

令和2年(R2.1-R2.12)の予算案(資料1)について鈴木会計幹事より説明があり、予算案は認められた。芳原幹事(近大)より、繰越金は年々減っているが、今後増やし見込みがあるのか?との質問があった。それに対して、櫻井幹事より、収入源がない状態であり、研究所から出すのは、会の独立性の観点より難しい。近年は支出を抑える方向で行い、引き続き幹事会で検討するとの回答があった。

### 3. 名誉会員の推薦について

櫻井幹事より資料2を参考に、適切な方について事務局に随時連絡して欲しいとの連絡があった。

### 4. 会員規約について

櫻井幹事より現在の原子炉利用研究者グループ規約(資料3)と改定案(資料4)について説明があり、改定案が承認された。ただし、川口氏(事務局)より、加入の時期が明確でない、「グループ」のことを「会」と述べている等、まだ不明瞭な記載があることが指摘され、引き続き幹事会で精査することとなった。

### 5. その他

芳原幹事より、以下の2点の指摘があった。

A. グループの中長期計画を立てておくべきではないか?

B. KUR 停止後は、主に加速器を使用するRI法寄りの研究所になるかもしれないが、KURを持つ限りは原子炉等規制法に関する核燃料が利用できる研究施設として、規制に対しても物を言えるように他の施設との連携を検討して欲しい。

櫻井幹事より、Aについて、幹事は2年ごとに代わるので、ロードマップを整理し引き継ぐべきであり、幹事会で検討するとの回答があった。Bについて、日野幹事より、大きな話で複合研が事務局をしている原子力科学系大学研究所等連絡協議会にも直結する案件との指摘があり、ユーザーからの意見として運営側にあげていくこととした。(以上)